

令和五年（2023）度アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書

I 理念

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」、また5つの基本理念「LIFE TRUTH FREEDOM GOODNESS ONENESS」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

II 最重要課題

1. 入学者の確保：中学校50名以上、高等学校130名を目標とした広報戦略の強化
2. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上
3. 学校改革に見合った施設設備の充実

【学校評価アンケートの結果と分析】

年度末の2024年1月に、Classiを利用したWebアンケート方式で実施した。

（保護者）

肯定的評価が高く7割を超えるのは、「学校の理念が伝えられている」「校則を守っている」「学校生活の中で、生徒に進路や生き方について考える機会が与えられている」「進路および学習指導に関する説明会・懇談・面接が適宜行われている」「学校行事を通して多様な体験ができています」「修学旅行・学習旅行など校外活動がお子様の成長に寄与する」「担任は家庭との連絡を大切にしている」「タイミングよく情報提供されている」であった。これらのことから「理念」「校則」「学校行事」「情報提供」と言った項目で満足度が高いといえる。

一方肯定的評価が低く5割を切るのは、「宿題の量や内容は適切である」「希望する大学受験に対応できている」の2項目であった。「希望する大学受験に対応できている」については、「わからない」が約25%を占めている。大学受験の意識がそれほど高くないと思われる中学生の保護者が回答者の約38%を占めていることも影響しているものと思われる。また、かろうじて約52%と5割を超えてはいるものの、「教材や授業法に工夫を凝らし、丁寧でわかりやすい授業に努めている」という教育活動の根幹である項目の評価はもっと高める必要がある。

（生徒）

肯定的評価が高く7割を超えるのは、「学校の理念が伝えられている」「教材や授業法に工夫があり、丁寧でわかりやすい授業をしている」「自分や友人は校則を守っている」「将来の進路や生き方について考える機会がある」「進路に関する説明会・学習指導が行われている」「学校行事を通して多様な体験ができています」「クラブ活動や宗教活動は活発である」「修学旅行、学習旅行などの校外活動が自分の成長に役立っている」「タイミングよく情報提供されている」「現在の生徒・クラスに満足している」「先生や職員は、ふさわしい服装やきちんとした行動・態度がとれている」の項目であった。このことから「理念」「校則」「進路行事・進路HR」「学校行事」「部活動・宗教活動」といった項目では満足度が高いと言える。とくに「進路についての説明会・考える機会の提供」はここ数年進路指導部が力を入れてきたところであり、2023年度も「トモノカイ」の現役の大学生と一緒に進路HRを行ってきたことが、評価されたものと思われる。

肯定的評価が5割を切る項目はなかったが、「悩みや困ったことがあったとき、先生（担任以外を含めて）に相談することができる」（約57%）、「先生は、学校で発生する問題を見逃さず対応してくれる」（約54%）、「希望する大学受験に対応できている」（約53%）の3項目は、評価が高いとはいえない。特に、「悩みや困ったことがあったとき、先生（担任以外を含めて）に相談することができる」、「先生は、学校で発生する問題を見逃さず対応してくれる」の2項目は生徒が安心して学校生活を送ることができるための必須項目であり、改善する必要がある。

(教員)

「学校の教育理念・方針を十分に周知している」「学校で発生する問題を見逃さず対応している」「保護者との連絡を大切にしている」の3項目は特に評価が高かった。しかし、アンケートの回答率が低いので、データの信ぴょう性はそれほど高くないと考える。

保護者アンケート・生徒アンケートともに、「将来の進路や生き方について考える機会がある」「進路に関する説明会・学習指導が行われている」の項目の評価が高かったことから、昨年度から力を注いできた「進路への働きかけ」に対する取組が評価されているといえる。また、「タイミングよく情報提供されている」項目も両者からの評価が高かったが、ICT機器が効果的に利用されていることの結果によるものと考えられる。

Ⅲ 本年度最重要課題に対する施策、及び自己評価

最重要課題	今年度の重点目標(Plan)	具体的な取組計画・内容(Do)	評価指標(Check)	自己評価(Action)
1 入学者の確保・広報戦略の強化	(1) 中学校50名 高等学校130名 を目標とした広報戦略の強化	1) Webページによる情報発信力の強化	ア) 紙媒体によるイベント告知からWebページへ誘導する流れを確立する。 イ) Instagramによる様々な学校情報の発信 ウ) 広報戦略会議の小・中高連携	ア) 結果：△ イベント毎にチラシを作成し、塾・公立中へ配布し、知名度向上を図った中学入試については効果が薄く、方法等を検討する必要がある。 イ) 結果：○ 学校ブログのこまめな更新や、学校のInstagramによる発信、パンフレットと連動したWebの更新など、ネット上での情報発信の充実を目指した ウ) 結果：○ 併設小児童保護者だけを対象としたオープンスクールを5月に企画した。併設小学校からの入学者は29名から27名と横ばいであったが予断は許さない状況である
		2) 説明会の目的を明確化と内容の充実	ア) 「生徒を見せる」企画の立案 イ) イベント回数の増加	ア) 結果：○ 在校生による学校説明、生徒による歓迎パフォーマンス、お手伝い生徒の起用、公開授業の実施などいずれも参加者に高評価を得た。 イ) 結果：○ 月に1回を目安に広報イベントを企画し、10月以降は小規模なイブニング説明会も実施し、総参加者数は昨年度とほぼ同じ数を確保した
		3) 内部満足度の向上	ア) 修学旅行・生徒会行事の活性化	ア) 結果：○ 合唱コンクールを含めほとんどの学校行事を実施し、チャリティ・デーでも飲食を復活させた。宿泊行事も海外修学旅行を再開し、中学校の修学旅行も沖縄からベトナム海外修学旅行の準備を進めつつある。 留学関係もターム留学については再開し、残されていたフィリピン研修・フランス研修も再開させた。

		4)入試制度の改善	ア)中学入試結果 イ)高校入試結果	ア)結果：△ 入試制度改善としては、教科型・英語型の計3回の受験チャンスとシンプルな制度とした。(塾から対策が立てにくいと不評であった思考力入試は廃止した)受験者数は昨年度から4名増加の62名となり、入学者も昨年度より4名減の52名となった。 イ)結果：○ 設備面の制約から2024年度は4クラス130名を目標に募集活動を行い、受験者総数は179名(併設中除く)となった。入学者も併設中からの進学者を含め132名となり目標を上回った。数年かけて取り組んできた近隣中学校との信頼醸成の結果と参加者出身中学校への丁寧なフォローの結果である。
2 教育	(1) 21世紀型教育の定着と充実に向けての教育力向上	1)英語イマージョン教育の充実	ア)イマージョン委員会を設置 イ)オリジナル教材の製作	ア)結果：○ イマージョン委員会を設置し定期的に会議を開催、ネイティブ教員同士の連絡・情報共有を行っている。 イ)結果：○ 高校理科・数学について、ネイティブ教員を中心に、オリジナル教材を制作している。今後も継続して内容を更新していく予定である。
		2)PBL教育の推進	ア)授業研修の充実	ア)結果：△ 授業見学週間など授業に焦点化した研修を実施した。また生徒理解をテーマに学校カウンセラーの福岡先生を講師に2回の研修会を行った。今後は外部研修会への参加教員を増やすことや、教科内での自主研修の実施などさらなる研修機会の拡大が望まれる。
		3)ICT教育の充実	ア)ICTを活用した授業の推進	ア)結果：○ 校内LANがつながりにくいという課題に対し、ICT委員会がフィルタリングのクラウド化を実施し、改善されつつある。一方プロジェクターなどの機器の耐用年数が過ぎ更新が必要である。授業でのICT活用はコロナ禍のオンデマンド授業を通じ、ほとんどの教員が実施できている。
		4)グローバル教育の充実	ア)国際交流プログラム・短期留学の充実 イ)語学検定など、資格取得の推進	ア)結果：○ カナダへのターム留学を再開し、短期のコリブリ・フランス研修については、2022年度より再開した。フィリピン研修についても2023年度より再開し、フィリピンイロイロ校との交流も開始した。 イ)結果：○

力の向上			<p>英語検定は中学生全校実施を、また外部業者による英検対策講座の実施など、資格取得を推進している。</p> <p>また校内で、TOEFL、フランス語検定、DELFDALF、硬筆・毛筆検定、漢字検定、ニュース検定の受験を積極的に勧め、資格取得者を増やしている。</p> <p>ウ)結果：○ 高校生向けに、国際交流センターが主催し、定期的に海外進学・留学説明会を実施した。</p> <p>ア)結果：○ 指定校推薦利用者は例年通り30%前後と昨年度の40%より減少した。連携協定校の関西学院とは、大学訪問も再開し、推薦進学者は3年連続10名以上となった。</p> <p>イ)結果：△ 進路指導部は都度ガイダンスを実施し、こまめに生徒に情報提供を行ってきた。また学年会もトモノカイの大学生と手を組み、生徒に働きかけを行ってきた。</p> <p>進路実績としては今年度も指定校推薦・総合選抜を効果的に活用し3割が関関同立以上、6割が有名私大に進学した。一般入試でも上智大・関学など有名私大への合格を果たしたが、国公立合格者は0名と奮わなかった一面もある。</p> <p>ウ)結果：○ 生徒の希望に沿った進路指導を、担任・学年団を中心として実施してきた。また進路指導部は大学の情報収集に努め、生徒及び担任に情報提供を行った。結果として生徒は文系・理系・国際系・芸術系など自分が希望する幅広い進路に進学している。</p> <p>ア)結果：△ 全員を対象とする授業見学週間、生徒理解研修、弁護士による研修等を実施したが、個人が自主的にとりくむ研修参加はまだ少ない。外部研修の紹介など、参加を勧めることが必要である。</p> <p>イ)結果：△ 中高連の部会が実施する生徒指導・人権教育の外部研修には参加してもらったが、校内の若手教員のみを対象とした研修を行うことができていない。</p>
		5)進路実績の向上	<p>ウ)海外進学を意識したイベントの充実と実績</p> <p>ア)関西学院大学との教育連携強化、指定校推薦枠を利用できる生徒の増加</p> <p>イ)受験による進学実績の向上</p> <p>ウ)「個々の能力にあった教育」</p>
	6)教員個人の教育力向上	<p>ア)教員対象授業研修の実施</p> <p>イ)若手教員向けの教員研修の充実</p>	
	(1) 学校改革に見合った組織と施設設備の充実	ア)中高男子サッカー部長期計画	<p>ア)中高男子サッカー部についての長期計画を検討する</p> <p>ア)結果：△ 中学校男子生徒におけるサッカー部員の割合が高くそのバランスが課題で</p>

3 施設設備の充実	イ)教室の整備	イ)クラス数増に見合った教室の整備	ある。2023年度入試では人数をおさえ、かつサッカー部以外の男子生徒も10名近く入学するなどバランスは改善されつつある。一方グラウンドでの窮屈さなど適正規模については継続して検討が必要である。
	ウ)環境の整備と充実	ウ)部室、更衣室、ICT環境等の整備と充実を行う	イ)結果：△ 中学校2クラス、高校4クラスに対応できる普通教室・設備を整備してきたが、2023年度はほぼいっばいの状況である。また設備（エアコン・プロジェクター・黒板）の更新が課題である。
	エ)小学校との連携	エ)様々な面で、併設小学校との情報共有、連携を行う	ウ)結果：△ 近年の温暖化による気温上昇に対し第二体育館・同更衣室の暑さ対策が急務である。2023年度は体育館更衣室の断熱化を行ったが、冷房化には電源不足の課題があり大規模な工事が必要である。第二体育館も見積もりをとり施設整備の優先課題としたが、2024年度予算での実現は困難な状況である。 その他調理室・PC教室機器の更新など計画的な設備更新が必要である。 エ)結果：○ 中学校・高等学校の校長が小学校校長を兼ねる形で情報共有・連携を目指し、一定の成果はあったと思われる。

【学校関係者評価】

・学校行事の度に、校長先生が必ずOnenessについてのお話をしてくださるので、学校の理念が生徒にも保護者にも浸透しているのだと思う。先生方の雰囲気は優しく、生徒たちは元気はあるが柔らかいという印象を受ける。初めて入学式に出席された方から、入学式が聖堂で行われ、お祈りやパイプオルガン演奏があり、英語でスピーチされるなど、アサンプションの教育理念が詰まっていたという話を聞いた。

・朝学は学習の習慣づけに役立っていると感じる。また、科目によっては小テストをこまめにやっていたりしているようで、それに向けて勉強しているという様子が伺える。ただ、中学校に関しては、家庭学習の習慣形成や学力定着のために、宿題をもう少し量を増やして計画的に出していただけるとありがたい。

・指定校推薦について、必要だと思うような情報が学校から入ってこないの、身近な人から情報を得ている。指定校推薦に向けて個別に1対1で相談できる時間も機会も少ない。指定校推薦で大学に行くことができるのかイメージがわきにくい。全て伏せられていて調整がなされないの、指定校推薦での受験について不安が多い。誰に相談したらよいかかわからない。

・海外大学進学について、何回か進学フェアに参加したが、決まった国の話ばかりで広がりが無い。国ご

との大学入試の特徴や違いなどを紹介してもらえるとありがたい。学校外の業者を利用することも考えられるが、本校から進学できる方が安心なので、海外進学について情報をもらえると助かる。

・何か問題が起こった時の教員の対応については、思春期の子どもは親に対してもきちんと話をしなくなるので、表面上は何もないように見えても、心の中には何かあって難しいと思う。そのため、アンケート結果で生徒と教員の間認識に乖離があり、不満が生まれたり、きちんと対応してもらえなかったりと感じる原因になっているのではないか。

・劇団四季を観に行く、オーケストラの生演奏を聴く、マナー講習等の私立学校ならではの情操教育や体験的な行事を増やしてほしい。